

いしかれん だより

第18号
1997. 3

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920 金沢市南新保町ル3番1号
石川県精神保健福祉センター内
TEL (0762) 38-5761
FAX (0762) 38-5762

巻頭言

「家族会活動に期待すること」

石川県小松保健所

所長 水腰 久美子



ある日突然に、それまで順調に学校生活や社会生活を送っていた我が子が、心の病におかされていることを知った時の家族の思い、それは経験した人でないと理解できない深刻な体験なのだろうと思います。どうして我が家にそんなことが起こるのか理解できない、遺伝的な要素はない筈だ、何故うちの子に限ってと、天を呪うような気持ちになられる人もあることでしょう。あるいは自分の育て方が悪かったのかと罪責感にさいなまれている御両親にもたくさんお目にかかったことがあります。不条理な運命を受け入れて、我が子を医療に託すしかないと思い定めた時には、回復を祈る気持ちでいっぱいであろうと思います。順調に回復して元の生活に戻られた方にとっては、闘病の時の経験は早く忘れてしまいたいものとなりますが、不幸にして病気の期間が長引いたり、何らかの障害を残して、元の生活ラインに戻れない場合の家族の気持ちはどうでしょうか。「この子はもう一生病院の世話になるしかない」と諦めてしまう親御さんもおられます。事実、家族も本人も回復を諦めてしまって、病院が「終の棲家」となっている方々が大勢おられます。またある家族は一生自分が背負って生きていくしかないと思い定めて、日常の生活をし、生活の面倒を細かくみておられます。以前時々家族会に出席させていただいた時に、最も多く話題に上ることは、「親なき後の心配」でした。そんな

な時、私はいつも1人の精神科医として病気を完全に治してあげられない無力感を感じたものでしたし、一方でこの病気の根の深さを痛感させられたり、精神障害者福祉の立ち後れに対して何とかしなければと思ったりしました。しかし、医師になってから約30年近い年月を経た今振り返ってみると、いろんな意味で進歩したというか、隔世の感さえ抱くこの頃です。精神保健福祉法の成立、障害者基本法の制定等の法整備の面もさることながら、全家連のたゆまぬ努力の成果もあるのでしょう、家族の方たちの意識変化にめざましいものがあり、それが世の中を少しずつ変えているという気がするのです。今年度は北信越のブロック研修会が小松市の粟津温泉で開催され、その時の大勢の家族会会員の皆様のエネルギーの高まりを見聞きして、大変心強く感じました。

まだまだ十分とはいえない部分も多く見られますので、保健所として今後も精神障害者の社会参加の促進と福祉向上のお手伝いをしていかなければとも思いますが、諦めずに息の長い活動を続けていけば必ず道は開かれると信じます。

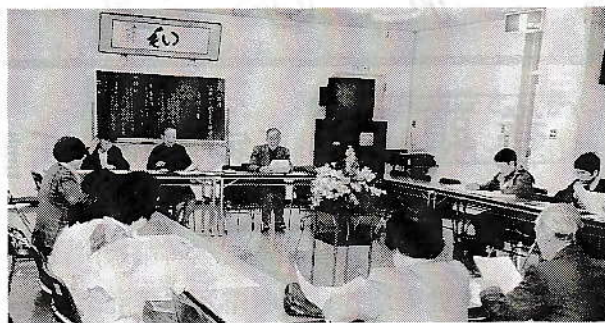
家族会は病気の勉強、福祉制度についての情報交換、行政への働きかけ等の活動を続けてきておられます。「親なき後」ではなく、「親がいる間に出来ること」にも目覚めて、前向きに取り組んでおられることに敬意を表したいと思います。今後も是非仲間を増やし、辛い思いを抱えている方たちが力をあわせ合って、家族会が発展していけることを願っています。

精神障害者家族会と病院長との懇談会

去る11月13日、毎年恒例の平成8年度精神障害者家族会と病院長との懇談会が行われ108名が出席しました。

今回は坂井尚登先生（金沢大学医学部附属病院助手）に「新薬とこれからの精神科治療」と題しご講話いただいた後、家族会からの質問、要望に対し、病院長からご意見、ご助言をいただきました。懇談会に先立ち、午前中、家族会

分科会を行い、家族の思いを話し合いました。以下は司会者による分科会報告です。



「病気・医療に関する分科会」

けやきの森会長 紺谷徳子

第一分科会「病気・療養に関すること」と題して、参加者21名と共に進められました。その中から午後の懇談会に提案させていただいた件について書いてみます。

(1)緊急時の医療体制の整備をお願いします。休日、夜間の緊急時にどこに連絡すればよいのか。特に奥能登地区には緊急用のベッドを配置して欲しい。緊急用のベッドがないため、家族が地域の中で偏見を持たれる行動をとらざるを得ない場合がある。

これについて「県は平成10年度から国の補助を受けて24時間体制を整備する予定」という回答を頂きました。

(2)発病当初の家族向けに、家族の対応の仕方を書いた簡単な冊子を配布して欲しい。発病当初は家族も本人も病気に対する知識不足のため、医療を中断したり、無理をして再発を繰り返すことが多い。こんな時に繰り返し読める冊子があれば助かると思います。

これについては、すでに家族向けに作られている病院もあり、後日石家連宛てに送って頂いたところもあり、参考になりました。

(3)奥能登地区に精神科病床を増やして欲しい。

精神科病院は金沢市に集中しており、奥能登では公立宇出津総合病院に週2回の外来診療があるだけです。

奥能登地区のすべての総合病院に精神科を設置して頂きたい。



「家族会活動に関する分科会」

泉の会会長 草開 實

参加者（22名）からの意見を以下にまとめます。

◎家族会入会の動機について

- ・病院から退院時、病院の待合室のポスターより保健所を知り入会につながった。又どうにかならないかという気持ちから主治医に相談したところ、作業所を知り入会につ

なだった。

- ・家族会があっても行かなかったが、作業所の設立にむけて入会となった。
- ・相談電話等で作業所を知り入会につながった。
- ・家族会へ入会するまで家族自身が色々と悩み迷い発病してから平均すると5年程かかっている。
- ・保健所から誘いがあった時は抵抗もあったが、家族教室で病気の理解や学習等を深めて行くにつれて家族会の場に出たくなった。
- ・入会してよかったことは、同じ悩みを持つ者同志が日常生活の中のことや誰にも云えないこと全てを相談でき気持ちが楽になった。



◎家族会からの要望

- ・地域家族会への加入を病院から積極的に勧めて欲しい。
- ・家族教室が病気理解に非常に役立っているため病院でも家族教室を行って欲しい。
- ・退院後の過ごす場所がないためシステム化したフローチャートのようなものが欲しい。

「作業所と住居等に関する分科会」

鳴和の里 広瀬 千恵子

平成8年11月13日県精神保健福祉センターで

開かれた家族会と病院長との懇談会は、県内の病院や関係機関及び当事者と家族が多数参加して医療と生活等精神障害者が抱える様々な問題を取り上げて考えていこうという集いです。私の参加した分科会「作業所と住居等に関する分科会」での話題は、

- ・作業所が増えて来たが、軽作業では物足りない人や憩いの場でいいと言う人に対し型の異なった施設が必要だと思う。



- ・病院を退院後の閉じこもり予防として病院や地域のデイケアや作業所等の受け皿を紹介してほしい。
- ・独居生活になった時は、生まれ育った所で生活して行ける様に行政が支援して欲しい。
- ・特に保健所には老人訪問のように精神障害者にも積極的に関わってほしい。
- ・近年は病院関係のグループホームや援護寮ができ、各地域で精神保健福祉の施策を考える動きが少しずつ見られるが、福祉の谷間にいる精神障害者の為に社会福祉法人を設立し、ぜひ援護寮、援産施設（福祉工場）、グループホームの設置を三点セットとして他の障害者施設と差別なくお願いしたい。

まだまだ多くの意見や要望が出されましたが、これからも家族が本気で自分達の事として取り組まなければならないと思っています。どうぞこれからも医療機関及び行政機関のご指導よろしくお願い致します。

〈家族会員の声〉

「家族会活動をふりかえって」

しらぎく会副会長 梶 義 伸

長男は高校3年終り頃から登校拒否が現われ難儀しながら先生の協力で何とか卒業しました。

京都の予備校なかばで病気が発症、家へ連れ帰りました。それからが本人家族こみで他には話できない必死の暗闘が長く続く……初めは病気そのものを認めるのが辛かったが…益々状態が悪くなってきたので金沢の病院に入院、1年程で落ち着いてきたので退院、早く仕事とあせて再発、今度は小松保健所のアドバイスもあって現在お世話になっている加賀神経サナトリウムに入院、ほんと救われ変形的ながら家庭も落ち着いてきて少し回りを見る余裕が出来てきた頃……時のしらぎく会会長下口さんより声あり……梶さん少し家族会の手伝いをしてもらえないでしょうか……そうですね私でお役に立つことなら…ということで平成元年5月より家族会の役員とのぞみ作業所所長（非常勤）ということで始まりました。

作業所の方は発足間もないので作業が出来る環境整備で、足りないものを家族会に働きかけていただき助かりました。年間予算を増やしていただくことでは関係市町村にお願いし、息の長い形で増額していただいております。お蔭で職員も確保でき感謝しております。

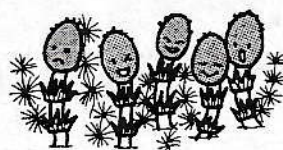
しかし夢は広がるもので現在ののぞみ作業所

は平家建で老朽化し面積も小さく、一種類の作業しかむずかしく抜本的見直しが必要と思われます。3階建の改築ができないものか……何を誰にどうしたら良いか悩んでいます。

何種類もの作業ができ教養室等もあってメンバーの本当の訓練の場になればと念じております。

なお、しらぎく会では3年前から患者の社会復帰への願いをこめて始めた1,000万円基金募金の目標も多くの方の善意でご協力いただき、平成9年2月1日現在5,320,431円と500万の折返点をまわってこちらへ向いてまいりました。これがいくらかでも作業所改築の基金になればと祈る日々であります。

+++++



くろゆり会 笠井 静 湖

夕食時、テレビを見ながらお酒をチビチビやっていた夫が急に息子をどなりつけた。

「こらあ。自分でせい。人に甘えとらんと。病人じゃあるまいし、何様のつもりや！」

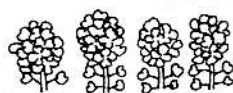
私に「ジュースとって」「新聞のテレビらんどこや」「お好みやきのタレのつけ方がきたない」というので、夫の「お酒チンしてくれ」といわれたのを私はすっかり忘れてしまったのだ。息子がおちこむかと心配したが、次の日「きのうお父ちゃんこわかったね」とほほえむ。単身赴任が長かったので、息子（ずっと祖父母宅で育った）との接点も少なく、しかられたこともないので、かえってうれしかったのか

もしれない。次の日から、自分でサッとするようになった。

栗津で入院1年3カ月。グループホーム1年3カ月を経て昨年8月息子は帰ってきた。12年ぶり3人の生活の始まりだ。

夫が「もうどこもおかしくないように見えるんだがなあ」という程、良くなった。

水は相変らずよくのむ。気持ちがおちつくんだという。空笑いも少しあったがいつのまにか、ほとんどなくなった。でも神経質だから、小さいことで気にやむ。「お金がなくなって貧乏するんじゃないか」「心がないみたいで死ぬんじゃないかと不安」と無口な子だが、言ってくれるようになった。おしゃれもするようになってバーゲンの目玉商品を一番に買いにゆく。CDも500枚位。ビートルズ、カーペンターズ、ロックと「おたく」の部類。車で迎えにきた時、CDが流れてると「おっ今日は気分がいいんだ」とすぐわかる。電気は高くつくからと、電気ごたつは使わない。電灯も暗くてもつけてないのが一番困る。「しかたないか」「やれやれ」と思う。夫もしょうだんで「もったいないし食べんとか」と横の息子をニヤリとみつめる。6年間の東京生活で発病。（浪人3年、美容見習1年。喫茶店8カ月。マクドのそうじ8カ月）ゲッソリやせて栄養失調で5年前帰ってきた、あのうつろで心を失っていた息子も今朝、元気よく(?)作業所へ向う程回復した。主治医の先生、看護師さん、デイケアのケースワーカーさん、作業所の指導員さん方、家族会の皆さんの温かい支えで、又明るい日々を送れております。皆さん本当にありがとうございます。



ちよに会会長 大橋 昭子

息子は今年28才になりました。発病して10年経ちました。夢と希望を抱いて18才の春、海上自衛隊に入隊しました。親としては元気で生き生きと訓練に励んでいると思っていました。ところが暮れも押し寄せた12月、一本の電話により、不安を抱えながら家族全員で東北自動車道を青森県の大湊まで道をたずねたずねたどり着きました。当の息子は注射で眠りつつけていました。それが発病の始まりだったのです。でも自分達も病気について認識の甘さで、入院させるまでに1年2ヶ月を無駄にすごしてしまいました。3ヶ月入院して無事退院の時、先生にいわれたアドバイスのとおりに早く仕事に就くように息子をおいたててしまいました。それでも息子は3年間会社を転々としながらがんばりました。だんだんと状態が悪くなっていきました。今から思うとなぜあの時家でゆっくりと休ませてやらなかったのかと悔やまれてなりません。自分自身にも病気の知識がなかったし、それ以上にお医者さんの1人の患者に対するきめこまやかな治療とアドバイスの言葉がほしかったのです。本人も家族も無駄なつらい日々を送ってきたような気がします。患者本人、家族、医者その三者のきめこまやかな話し合いがいかに大切かと感じます。これから先、何年かかるかわかりませんが、きっと良くなると信じています。

患者本人が心から信頼できるお医者さがしに家族も協力していただきたいと思います。

お知らせ

「心のふれあい講演会」

○講演

「わたしたちの力を信じて」

講師 すみれ会（札幌市）副会長

すみれ第二共同作業所所長

宮 岸 真 澄

すみれ会会員

菅 原 学

○作業所作品展示、即売

○ビデオ上映

「ベリー・オーディナリー・ピープル」

（北海道浦河町「べてるの家」の活動紹介ビデオ）

○日時

平成9年3月24日（月） 午後1時～4時

○会場

小松市すこやかセンター

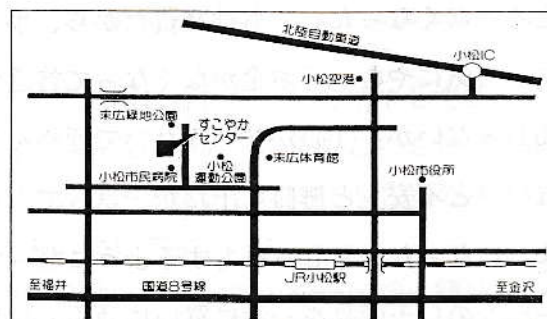
（小松市民病院となり）

小松市向本折町へ14-4 TEL0761-21-8118

○主催

石川県精神障害者家族会連合会

小松能美地区精神障害者家族会くろゆり会



精神障害者小規模作業所作品展示会

石川県より作品展示会開催事業が石川県精神障害者家族会連合会（石家連）に委託され、実行委員を組織して当たることにしました。

平成8年10月8日に第1回の実行委員会を開き話し合った結果、石川県精神障害者小規模作業所連絡協議会（石作連）に対して協力を要請し、実行委員として参加してもらうこととなりました。

作品展開催日程、内容などは次の通りです。

行なう
場 所 ジャスコ松任ショッピングセンター
ふれあいの広場（1階）
松任市平松町102番地1
TEL0762-74-8600
主 催 石川県・石川県精神障害者家族会連合会
共 催 石川県精神障害者小規模作業所連絡協議会

開催期日 平成9年3月26日（水）

～3月30日（日）

内 容 3月26日～3月29日

○パネル（家族会へのお誘い、各作業所の紹介）展示

○家族会へのお誘いのチラシ配布

○作業所作品展示

○3月30日には上記に加えて即売会を

編集後記

年度末のただでさえ忙しい時期ですが、石家連はこの紙面にてご案内のとおり、二つの行事を開催します。春風に誘われて出かけてきて下さい。きっと楽しい出会いになることを期待します。